

男声合唱団

コールバッカス

CHOR BACCHUS

第7回
演奏会

2012 年9月17日(月・祝) 午後2時開演/高槻現代劇場大ホール

●主催：男声合唱団 コールバッカス

●後援：(公財) 高槻市文化振興事業団 / 高槻音楽家協会 / 高槻市合唱連盟 / 高槻市コンサート協会

Program

第1ステージ ロシア民謡

指揮 石原 祐介

1. ポーリュシュカ・ポーレ
2. 12人の盗賊
3. ステンカ・ラージン
4. タベの鐘
5. カリンカ

第2ステージ 林 光 編曲 男声合唱による日本抒情歌曲集より

指揮 三木 秀信 ピアノ 本多 千紘

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 椰子の実 | 作 詞 島崎 藤村 | 作 曲 大中 寅二 |
| 2. ゴンドラの唄 | 作 詞 吉井 勇 | 作 曲 中山 晋平 |
| 3. 待ちぼうけ | 作 詞 北原 白秋 | 作 曲 山田 耕筈 |

《 休 憩 》

第3ステージ フランスの詩による男声合唱曲集

『月下の一群』 第1集

訳 詩 堀口 大學 作 曲 南 弘明

指揮 石原 祐介 ピアノ 片野 涼子

- | | |
|----------------|-------------------------------------|
| 1. 小曲 | 目を開くと 私には景色がみえる。目を閉すと 私にはお前の顔が、、、 |
| 2. 輪踊り | 世界ちゅうの娘さんたちがみんな 手をつなぎ合ふ氣にさへなったら、、、 |
| 3. 人の言うことを信じるな | 人の云ふことを信じるな、乙女よ。恋をたづねて行かぬがよい、恋は、、、 |
| 4. 海よ | 海よ、きかせておくれ、お前が転がしていた磧(こいし)のことを、、、 |
| 5. 秋の歌 | 秋風の ヴィオロンの 節ながき啜泣(すすりなき) もの憂き哀みに、、、 |

第4ステージ 東北への想い

- | | | |
|----------------|-----------|-----------|
| 1. 牛追い唄(岩手県民謡) | 作 曲 清水 脩 | 指揮 三木 秀信 |
| 2. 斎太郎節(宮城県民謡) | 編 曲 竹花 秀昭 | 指揮 三木 秀信 |
| 3. 大漁祝い(福島県民謡) | 作 曲 清水 脩 | 指揮 尾瀬 肇 |
| 4. 花の冠 | 作 詞 大越 桂 | 作 曲 松浦 真沙 |

指揮 尾瀬 肇 ピアノ 本多 千紘

5. オーチェナーシ (ロシア正教聖歌)
「主の祈り」

編 曲 加藤 直四郎

指揮 石原 祐介

♪♪東北への想いをこめて『故郷(ふるさと)』を 会場の皆様全員で合唱 ♪♪

指揮 尾瀬 肇 ピアノ 本多 千紘

プロフィール



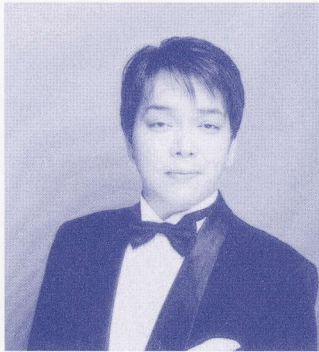
石原 祐介 常任指揮者

崇徳高校、京都産業大学に在学中はグリークラブに所属、男声合唱にあけくれる青春時代を過ごす。その後、京都市立芸術大学、同大学院を卒業、修了。

卒業時に音楽学部賞を受賞。第21回飯塚新人音楽コンクール第2位。

声楽を灘井誠、山口はやとの各氏に、合唱指揮を吉村信良氏に師事。

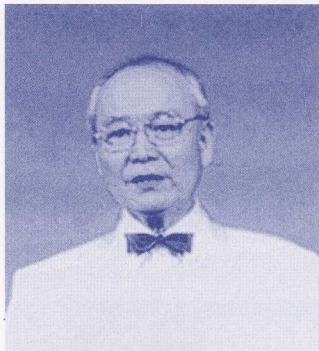
現在、神戸市混声合唱団バスパートリーダー。京都市立芸術大学非常勤講師。日本合唱指揮者協会会員。同志社グリークラブヴォイストレーナー。龍谷大学男声合唱団顧問指揮者。アンサンブル・キルシェ指揮者。大阪シンフォニッククワイア合唱指導者。



三木 秀信 客演指揮者

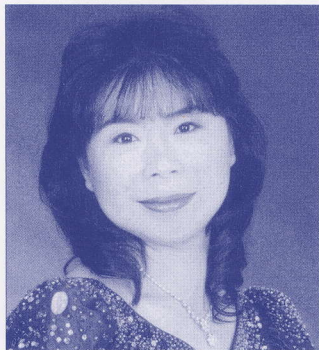
作陽音楽大学声楽科卒業。在学中、平井康三郎氏の公開レッスンを受講、高い評価を得る。1988年第6回兵庫県高等学校独唱独奏コンクール声楽部門入賞。

1989年第7回同コンクール声楽部門第2位受賞。神戸市混声合唱団団員、ザ・カレッジ・オペラハウス準団員、堺シティオペラ会員、ソワレの会、上方オペラ工房メンバー。淀川混声合唱団、男声合唱団コールバックス、和泉メサイヤ合唱団および和泉メールクワイヤーヴォイス・トレーナ。府立三国丘高等学校非常勤講師。



尾瀬 肇 客演指揮者

大阪音楽大学音楽学部声楽科を卒業後、高槻市立小中学校音楽科教員として勤務。退職後混声合唱団「こーる・ゆう」を設立して約20年間指導に当たり今日に至る。地域に音楽活動を通して貢献したいと考え、童謡唱歌などを歌う会を組織して活動中。高齢者教室や施設で歌うことをライフワークとしている。2001年よりおよそ7年間、コールバックスに団員として演奏に参加し、その間、故加藤直四郎先生のご指導に強い影響を受けた。



片野 涼子 ピアニスト

京都市立堀川高校音楽科を経て、京都市立芸術大学音楽学部卒業。リサイタル(97, 05, 09年)やオーケストラとの共演などソロ活動の他、合唱、声楽、楽器など様々な分野で伴奏者、室内楽奏者としての活動を幅広く行っている。2000年ゲルハルト・ボッセ氏、2006年ステファン・キーロフ弦楽四重奏団と共演。2007年にはヴァイオリンとのデュオリサイタルを開催する。1993年第30回なにわ芸術祭にて新人賞奨励賞を受賞。ライラックハーモニー、女声合唱団はな、イベント合唱団、男声合唱団コールバックスのピアノを担当している。



本多 千紘 ピアニスト

大阪音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。同大学大学院ピアノソロ研究室修了。同大学および短期大学部に非常勤教育助手として勤める。これまでにテレマン室内管弦楽団、オーケストラソノリテ、ウクライナにてチェルニーゴフィルハーモニー交響楽団などと共演。また、映像やダンスなどとのコラボレーション及び即興セッションの企画・参加など、ジャンルを超えた総合的な活動を目指す。2005年、2011年ソロリサイタル開催(宝塚市)。2006年重松みか氏プロデュースによる日本人オペラシンガーのためのサマープログラムTSPに伴奏ピアニストとして参加。ピアノを菅波多恵子、山田みつ、故神野明の各氏に師事。現在、大阪音楽大学演奏員。

ご挨拶

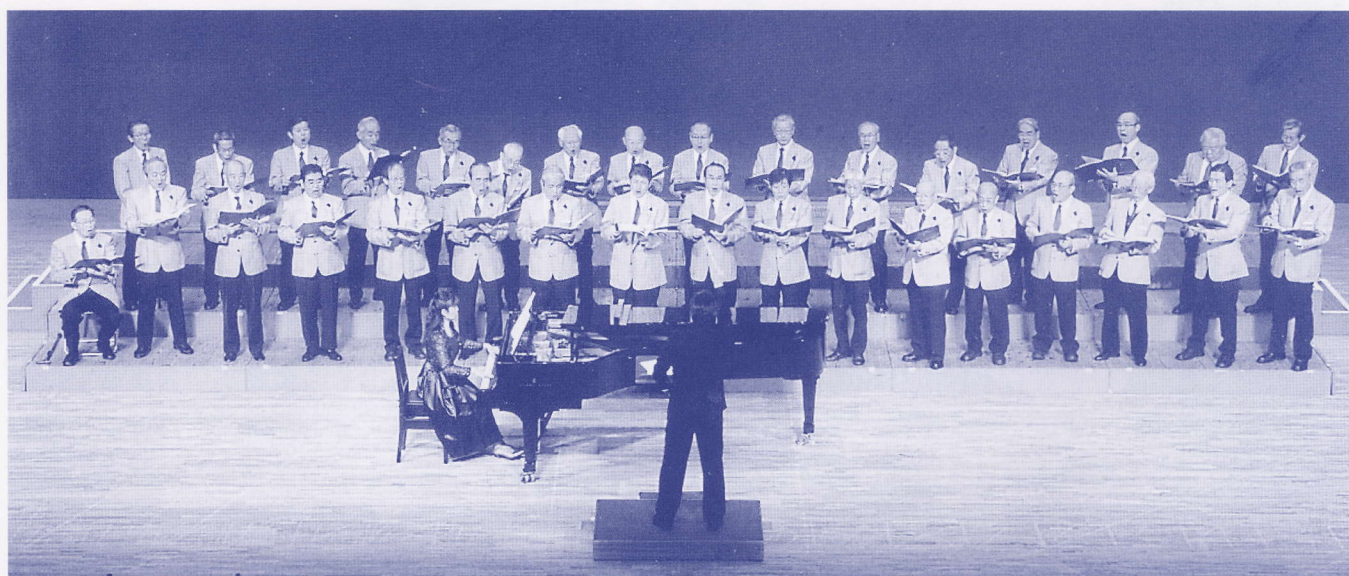
本日はお忙しい中、男声合唱団コールバックス第7回演奏会にご来場賜り心より御礼申し上げます。
当団は今年6月に創立18周年を迎えました。40名を超える団員の平均年齢は72歳になりました。団員の高齢化は何かと厳しい昨今ですが、それでも男声合唱の楽しさ素晴らしさに取りつかれた男達が自ら歌う楽しみを求める情熱はいまだ健在です。

今回も優秀な先生方の熱心なご指導に支えられて一生懸命練習に取り組んで参りました。その一端を少しでもお聴き頂ければ大変嬉しく思います。

次に是非ご披露したいお話が有ります。昨年、東日本大震災の被災地への応援歌として誕生した「花の冠」と言う曲を作曲者の松浦真沙先生が全くのご厚意でコールバックス向けとして男声四部に編曲をして下さいました。今日は第4ステージでその「花の冠」と合わせ、東北地方のよく知られた民謡を特集して、被災地への思いを込めて歌わせて頂きます。熟年の男達の滲み入るような味わいが出せるよう頑張ります。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。そして、これからも変わらぬご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

2012年9月17日

団長 秦 信一郎



メンバー紹介

*トップテナー

伊藤 直 明
緒形 嘉 彦
常 慶 直 久
竹 島 秀 一
竹 中 克 和
田 辺 慎 一
中 川 修 一
脇 裕 二
和 氣 多賀司

*セカンドテナー

赤 間 哲
秋 山 松 吉
池 田 實
大 上 智 敬
狩 谷 拓 巳
越 賀 重太郎
平 英 一
秦 信一郎
三 好 元
米 花 務

*バリトン

伊藤 元
小 野 明
古 池 亮 三
塩 谷 健
島 一 夫
中 村 稔
古 川 豊
間 瀬 誠
南 貢
村 尾 禎 彦
矢 橋 道 夫

*バ ス

江 島 靖 彦
岡 田 武
小 泉 勇
柴 本 良 男
堤 伸 夫
中 嶋 康 喜
長谷川 良 隆
藤 山 佳 洋
増 田 雄五郎
松 浦 喬 二
柳 澤 堯 明
吉 田 文 弥

Program note

第1ステージ ロシア民謡

日本においてロシア「民謡」と呼ばれていますが、実際はロシア語で「大衆歌謡」という言葉を誤訳したものだと言われています。また、ソビエト時代、「歌は公共の財産」という考え方のために、作詞者、作曲者ともに伏せられていた場合も多く、代々受け継がれていた、作者不明の歌という印象を強くさせたことも、「民謡」という言葉が使われ続けることとなりました。しかし、今回演奏する曲は1800年代以降に作曲されたものばかりで、抒情歌や祝婚歌、叙事詩に作曲されたものなど、そのスタイルも多岐にわたります。美しいハーモニーとともに、雄大さや快活さを感じていただけるよう歌います。

第2ステージ 日本抒情歌曲集より

「椰子の実」 周りを海に囲まれたわたしたちのルーツに心を馳せる時、流れ寄る‘もの’に熱い想いを感じるのは、昔も今も同じかもしれない。波のうねりのように自己を求め、魂を揺さぶる言葉となりますように。

「ゴンドラの唄」 今では過去のものとなりつつある日本人の気風、人情深さ・秘めたる想い・儂さなど等。淡々と、それでいて甘く切ないピアノ・パートにわたしたちの普遍の心が昇華されている。

「待ちぼうけ」 中国東北地方の伝説「守株待兔」がモチーフ。耕稼&白秋コンビのユーモラス歌曲の極み。そこに、カラリとした含み笑いを追求した編曲者のセンスを加え 更に絶妙。

第3ステージ 「月下の一群」 第1集

上田敏「海潮音」とならぶ翻訳詩集の名作、堀口大學の「月下の一群」はその格調高い言葉遣いにより、今なお読者の心を強く捉えて離しません。作曲者の南弘明もその一人です。昭和52年に崇徳高校グリークラブから委嘱を受けた彼は、当時オリジナルの詩に曲をつけることが主流だった時代に、これらの詩に強く心を惹かれて作曲しました。この作品の初演は大成功をおさめ、当時の男声合唱団がこぞって取り上げました。その後、第2集、第3集と作曲され男声合唱における重要なレパートリーとなっています。好きな女性を思う時の甘い気持ち、女性への皮肉をこめた忠告、海への敬慕などロマンチズムにあふれた詩と音楽をお楽しみください。

第4ステージ 東北への想い

このステージで歌う「花の冠」は、2011年3月11日の東日本大震災からひと月たつ頃、作曲家の松浦真沙さんが曲を作り、仙台市の若き詩人 大越（おおごえ）桂さんが作詞してできあがり、4月末に仙台の街角で初演されました。コールバックスでは 松浦先生に男声四部合唱に編曲していただき、昨年11月の高槻市民音楽祭で初演しました。我が団では、どんな境遇であっても希望のたねが育っていくことを願い、この曲を歌いつないでいきたいと思います。勇気付けられる東北3県の民謡（牛追い唄、斎太郎節、大漁祝い）と 祈りを込めて歌う「オーチェナシ」と共にお届けします。

最後に 被災地に美しい郷土が早く戻ってくることを祈って「故郷（ふるさと）」をみなさまと一緒に歌いましょう。



求む！ あなたを！ コールバッカスへ！

次の演奏会では

共にステージで唱おうではありませんか！

入団・見学ご希望の方へのメッセージ

練習日 第1・第2 土曜日 18:00~21:00

第3・第4 水曜日 18:30~21:00

場 所 城内公民館・磐手公民館 他

連絡先 秦 072-688-5589

古池 072-681-0236

ホームページ：www.chor-bacchus.net/